

令和5(2023)年度下都賀地区初任者研修会(授業研究)を開催いたしました。

令和5(2023)年6月22日(木)実施
下都賀教育事務所 学校支援課

1 研修の目的・内容等

(1) 目的

新規採用教員に対し、先輩が行う授業の参観や授業研究会等を通して、教科等の指導に関する研修や指導上の諸問題についての協議を行い、教員としての指導力と資質の向上を図るとともに、管内新規採用教員の相互交流を図る。

(2) 会場

- 小学校会場 栃木市立岩舟小学校
栃木市立小野寺小学校
- 中学校会場 栃木市立岩舟中学校

(3) 内容

- 趣旨説明および諸連絡
 - ・「授業の見方と学習指導について」 下都賀教育事務所 学校支援課 担当
- 授業参観(教科)
- 授業研究会(班別研修)

2 本研修で確認したこと

(1) 学習指導

(「令和5(2023)年度 とちぎの若手教員15(いちご)研修資料」p9

「令和5(2023)年度版 下都賀地区学校教育の重点」p6・p9より)

- 学習指導は、教師の生命ともいふべきものである。
- 授業をいかに行うかは、教師にとって最も重要な課題である。
- 児童生徒一人一人が自分のよさを生かして、主体的に課題を解決し、豊かに成長することができるよう、教師は常に創意工夫に努める。
- 教師が教え込むスタイルの授業ではなく、児童生徒の活動を重視し、児童生徒一人一人を主体とした授業の実践に努める。
- 実践を通して、生涯にわたって学び続ける児童生徒を育てていく。
- ねらいを明確にした分かる授業づくりのために、ねらいの提示の仕方を工夫し、ねらいを基にした振り返りの充実を図ることが大切である。
- 言語活動を取り入れる目的を明確にし、その充実を図る。
- 「学業指導」の充実
 - ・学びに向かう集団(学級)づくり
 - ・子どもが意欲的に取り組む授業づくり



3 本研修で学んだこと（研修者が記入した「研修の振り返り」より）

- ・ 授業を行う際、単元のゴールを意識することが大切だと分かりました。単元を見通した授業づくりについて、これからしっかり考えていきたいです。
- ・ 学習指導において、単元や授業のねらいを教師が明確に捉えて授業を行うことの重要性を感じました。
- ・ ねらいを明確にして授業を行うことの大切さを強く感じました。明確なねらいによって、芯のぶれない授業を行いたいです。
- ・ まず、単元のゴールを明確にし、それに向かって何を用いてどのような学びをするのか逆算して考えてみようと思いました。
- ・ ねらいを子どもと共有するということが、形式だけでうまくいっていなかったと気付かされました。ねらいを子どもにも伝わる明確なものにすることや振り返りの方法について、もっと研究していきたいです。
- ・ 先生が教え込む授業ではなく、子どもと一緒にねらいをつくるなど、子ども主体の授業になるよう工夫したいと思いました。
- ・ 授業参観をとおして、学級経営における学習のルールの定着や教師の意図的なかかわりが非常に大切であることを実感しました。
- ・ 自分のクラスで取り入れていきたいことや勉強になったことが数多くありました。学級経営や授業の流れ、導入や発問の工夫等、ぜひ参考にしていきたいです。
- ・ 先生の受容的な態度や言葉かけによって、子どもたちが意欲的に学んでいる姿を見て憧れを感じました。これからの自分の実践に生かしていきたいです。
- ・ 今回の研修で、よい授業づくりには、よい学級、学校づくりがとても大切であると改めて感じました。
- ・ 子どもたちとかかわる中で、「～したい」と思わせる工夫が教師には大切なんだと改めて学びました。
- ・ 子どもの実態に応じて支援や指導をするために、授業はもちろん、日頃の学級経営を意識して取り組んでいきたいです。
- ・ 普段の子どもたちとのやり取りで悩むことがたくさんありますが、まずは子どもたち一人一人と信頼関係を築いていくことが大切であることを学びました。
- ・ 子どもの可能性を信じ、子どもと共にならばという意識で日々の指導に当たってきたいです。
- ・ 情報交換では、日頃の悩みを同期の先生方と共有し、解決策を一緒に考えることができ、大変有意義な時間でした。
- ・ 同じ下都賀地区の先生方と意見交換をしたことで、新たな学びがありました。自分だけでは思いつかなかったことや考え方等、大変勉強になりました。

